

がん検診の『受診控え』をしている皆さまへ

～皆さまに安心してがん検診を受けていただけるよう
感染防止対策の取り組みを行っています～



◆コロナ禍でもがん検診は重要です！

がんは日本人の2人に1人が生涯のうちに罹患すると言われており、誰もががんに罹患する可能性があります。

がんの進行は、コロナの収束を待ってくれません。

コロナ禍で健康を見つめなおす今だからこそ、がん検診を受けましょう。



◆検診会場の感染対策について

検診会場は感染防止ガイドライン等に基づき、感染対策を徹底しております。

- ・3密の回避（予約人数・予約時間の調整、受診者間の距離の確保）
- ・検診会場や検診車内の換気の徹底
- ・検診車内の人数制限
- ・1人終了ごとに検診機器を消毒



◆受診される皆さまへのお願い

安心安全ながん検診のため、新型コロナワクチンを接種された方でも、感染対策にご協力お願いします。

マスクの着用・体調不良時の受診自粛・受診者間の距離の確保



<お問合せ先>

がん検診のお申し込みについては、お住まいの市町のがん検診担当課へお問い合わせください。



早期発見・早期治療のためにも「受診控え」することなく、
がん検診を受診しましょう！

（公財）福井県健康管理協会

☆ 乳がん検診を受診される皆さまに ☆

安全にマンモグラフィ検査を受けて頂くために、以下の方は検診をお断りしています

- 豊胸術やVPシャント術をされた方
- 心臓ペースメーカーを装着されている方
- CVポート（薬剤注入器具）が前胸部に入っている方
- 妊娠中もしくは妊娠の可能性のある方
- 授乳中の方
- 乳がんを含む乳腺疾患で病院へ受診予定のある方
- しこりを自覚している方や血の混ざったような分泌物がある方

マンモグラフィで見えない乳がんもあります！

X線写真に写らない乳がん(偽陰性と言います)もあるため、マンモグラフィ検査で100%乳がんが検出されるわけではありません。

特に乳腺組織が豊富でマンモグラフィ上白っぽく写るタイプの乳房(高濃度乳房)は偽陰性が増える傾向にあります。

ブレスト・アウェアネスを実践しましょう！

ブレスト・アウェアネスとは『**乳房を意識する生活習慣**』のことです。

日ごろの生活の中で次の4つを行いましょう。

1. 普段の自分の乳房の状態を知る
2. 乳房の変化に気をつける（しこりや乳房のひきつれなど）
3. 変化に気が付いたら、検診を待つことなく医師の診察を受ける
4. 40歳になったら、2年に1回乳がん検診を受ける

まず自分の乳房の状態を知ることから始めましょう（硬さや柔らかさ、左右差、皮膚の状態など）。閉経前の方は、月経周期による乳房の変化を知ること大切です。日ごろの乳房の状態を知っておくことではじめて異常の出現に気付けるのです。

※自覚症状がある場合は速やかに医療機関を受診しましょう

検診と
ブレスト・
アウェアネスが
重要！！



福井県がん検診精度管理委員会乳がん部会

事務局 （公財）福井県健康管理協会
電話 0776-98-8000

受診の前に必ず
お読みください

がん検診を受けられる方へ

(がん検診は市町・福井県医師会・福井県健康管理協会が共同して実施しています)

お問合せ先
(公財) 福井県健康管理協会
TEL 0776-98-8000

	胃がん		肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
						
対象年齢 受診間隔	原則として 50歳以上 2年に1回		40歳以上 1年に1回	40歳以上 1年に1回	20歳以上 2年に1回	40歳以上 2年に1回
検診方法	胃X線検査	胃内視鏡検査	胸部X線検査(+喀痰)	便潜血検査(2日法)	子宮頸部細胞診検査	マンモグラフィ検査
	胃を膨らませる薬とバリウム(造影剤) 140mlを飲んで、胃のX線写真を撮り、胃の粘膜を観察します。	口あるいは鼻から内視鏡を入れて食道と胃を観察します。がんが疑われる場合には組織を採って検査します。	胸部のX線写真を撮ります。高度の喫煙者(1日の喫煙本数×年数=600以上)では喀痰検査を追加します。 肺がんの予防には、禁煙が極めて重要です!	便に血液が混じっていないかを 2日分の便 で調べる検査です。 専用の採便棒で便の表面を擦って棒の溝が埋まる位の便を採り、①1日目の採便容器は 冷蔵庫で保管 し、②2日目を採ったら併せて提出します。	子宮の入口を特殊なブラシで擦って細胞を採り、異常な細胞がないか顕微鏡で確認します。	乳房を撮影台と板の間に挟み、乳房のX線写真を撮ります。
備 考	放射線被ばくの影響はほとんどありません。		放射線被ばくの影響はほとんどありません。	室温に放置すると便中の血液が消失します。	子宮頸がんは性交渉により感染するヒトパピローマウイルスが原因です。→性交渉の経験のない方は検診対象となりません。	放射線被ばくの影響はほとんどありません。
精密検査	胃内視鏡検査、必要に応じて組織検査		胸部CT検査	大腸内視鏡検査	腔拡大鏡検査+組織検査	マンモグラフィ+超音波検査+細胞の検査
死亡順位(2020年)	男:2位、女:5位 (男女合計死亡3位)		男:1位、女:2位 (男女合計死亡1位)	男:3位、女:1位 (男女合計死亡2位)	13位 (20代30代の罹患1位)	女:4位 (罹患1位)

がん検診には、がん死亡のリスクを減らす**利益**がある一方で、放射線被ばく、検診に伴う事故、がんと正しく診断できないなど**不利益**もあります。

大事なことは ①自覚症状がある場合には、がん検診ではなく医療機関で検査を受けること

②がん検診は、決められた間隔で定期的に受けること

③要精密検査になったら、必ず精密検査を受けること

④検診後に腹痛などの自覚症状が出た場合には、かかりつけ医(もしくは当協会)に相談すること です。

検診結果等のデータは市町や受診機関等へ報告されますが、皆様の個人情報情報は完全に守られます。